

今週の活動から



六ヶ所村の次世代エネルギーパークの風力発電の下で。相当強い風でした。

(上: 釘丸議員)

原燃PRセンターの前で
(下: 栗山議員)



六ヶ所原燃PRセンター
見学記念 平成23年10月11日

愛甲地域で放射線量調査

愛甲地域の放射線量調査結果 (10月17日)

調査スポット	最低値	最高値
愛甲原児童公園	0.06	0.06
ぐみだ公園 (東名高速南側)	0.06	0.08
ハウエイパーク (東名高速北側)	0.08	0.10
愛甲小学校正門前	0.07	0.09
依胡田公園	0.06	0.07
ひばり公園	0.05	0.07
愛甲老人憩の家 (坊中)	0.06	0.07
宿愛甲児童遊園	0.05	0.06
愛甲石田駅北口 バスターミナル	0.06	0.07
宮前公園	0.06	0.09

単位は マイクロシーベルト/時
使用機種は、アメリカ、レイシシステムズ社
「PRM1200」。シンチレーションで、
エックス線とガンマ線を計測できるもの。

愛甲地域で放射線量調査



愛甲地域では、厚木市が放射線量を測定した当初(6月3、4日)には高い値(0.14マイクロシーベルト/時、地表50cm)が出ており、小学生や幼児を持つ保護者が大変心配していました。その後は0.06から0.11で国の基準値内でした。

議員団は、これまででも未知地域や、要望を受けて個人宅や農地などで放射線量を測定してきました。このところ、草むらなどを測りました。傾向としては、中央部よりは、周辺や草むらなど高い値が出ました。どの場所も、国の基準(0.11以下)でした。

これからの、議員団は皆様の要望にこたえて調査いたしますので、お声をかけて下さい。

10月17日(月)午前、愛甲地域で放射線量調査を行いました。当日は、風もなく薄曇りでした。

愛甲地域は、厚木市が放射線量を測定した当初(6月3、4日)には高い値(0.14マイクロシーベルト/時、地表50cm)が出ており、小学生や幼児を持つ保護者が大変心配していました。その後は0.06から0.11で国の基準値内でした。

「放射線量 測定中」の看板を出して測定していると、通りがかりの人や公園を利用している人が興味深そうに寄ってきて、対話になります。

「どのくらいの放射線量なのか分からないので不安でした。調べてくれてありがとうございます」という人がたくさんいました。

各調査地点では、まず公園などの中央を測り、砂場や滑り台の下、東屋の雨だれの落ちるところ、草むらなどを測りました。傾向としては、中央部よりは、周辺や草むらなど高い値が出ました。どの場所も、国の基準(0.11以下)でした。

このところ、議員団は皆様の要望にこたえて調査いたしますので、お声をかけて下さい。

六ヶ所村(青森)の原燃PRセンターを見学して

「安全」「安全」の強調は ウサン臭い!



上: 低レベル放射性廃棄物はドラム缶に詰めて地下に埋設しています。



下: 高レベル放射性廃棄物を詰めたガラス固化体の模型。

議員団が青森県内にいた12日夜、「六ヶ所村」にフランスから運び込まれた、ガラス固化体(使用済み核燃料をフランスで処理したもの)から、基準値を超える放射線量が検出された」と報じていました。

「安全」「安全」はウサン臭い!

反対運動をしている人々は、六ヶ所再処理工場が本格稼働した場合に空と海に放出する放射能が1日分で原発1年分になると、本格稼働はすべきではないと主張しています。

東日本大震災の時は、外部電源を喪失、非常用ディーゼル発電機で給電したが、14日には、発電機に不具合を生じたため外部電源を使用。使用済み核燃料の貯蔵プールの水が溢れ出しました。また、これまでも作業員の体内被曝、プルトリウムを洗浄する硝酸ウラナス溶液の漏洩など事故が報じられています。

その内容を、国民に宣伝しようとして作られたのがPRセンター。節電中ということで、3次元シアターはお休み。3階まであり、1階と地下では「原子燃料サイクル施設の中を大型模型で再現しています」とありますが、施設内の説明を読んでもさっぱりわからない。「安全です」「低レベル放射能で、しっかりと封鎖(隔離)するから大丈夫」と言いながら、「東日本大震災の教訓を受けて・・・」という言葉が次々と出てきます。

10月11日、青森県六ヶ所村にある「原燃PRセンター」を見学してきました。

六ヶ所再処理工場は、日本原燃(株)が、全国の原子力発電所で燃やされた使用済み核燃料を集め、その中から核燃料のウランとプルトリウムを取り出し、再処理し、再び原発で利用しようとするもの。1993年から約2兆1900億円の費用をかけて建設、現在試運転中。